

日本写真学会 第33回「写真好き」のための定例講演会

「金丸重嶺 vs 名取洋之助 - オリンピック写真合戦 1936」展 解説と作品鑑賞



金丸重嶺撮影 [古田康治選手 (三段跳び) 練習風景@ヘルシンキ]



名取洋之助撮影 [スタジアムでのナチス式敬礼 開会式@ベルリン]

【開催日時】 2018年6月27日(水) 14:00 ~ 16:30 (13:30より受付開始)

【開催会場】 JCIIビル 2階 200会議室 集合

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地 JCIIビル 地図:⇒ <http://www.jcii-cameramuseum.jp/map/map.html#>

【交通】

- 東京メトロ◎半蔵門線半蔵門駅下車 4 番出入口より徒歩 1 分
- 東京メトロ◎有楽町線麴町駅下車 3 番出入口より 徒歩 8 分
- 都営バス「都03 グリーンライン (四谷駅=半蔵門=日比谷=銀座四=晴海埠頭)」半蔵門停留所下車 徒歩 4 分
- * JR東京駅からは、東京メトロ◎丸の内線東京駅→大手町駅にて◎半蔵門線に乗り換えると便利です。

【プログラム】

第一部：『金丸重嶺vs名取洋之助—オリンピック写真合戦 1936』作品と背景の解説 14:00 ~ 15:00

金丸重嶺 (1900-1977) は、日本のコマーシャルフォトの先駆者であり、写真教育者として多くの後進を育てたことで知られています。名取洋之助 (1910-1962) は、写真家となったドイツでの経験から組写真で語る (報道写真) の概念を日本に持ち込み、対外グラフ誌『NIPPON』の創刊や『岩波写真文庫』の制作で活躍しました。1930年代の若き日には新しい写真表現を仕事に実現させようと邁進した 2 人は、1936年開催のオリンピックベルリン大会では現地に赴いて選手や競技を取材しています。これらの経緯やその意味についての知見を解説します。

一般財団法人日本カメラ財団調査研究部長 白山真理先生

第二部：JCIIフォトサロンにて作品鑑賞 (会場案内・説明付き) 15:10 ~ 16:30

作品展の中心は、二人のオリンピック取材写真です。ヘルシンキで直前練習を行い、ベルリンに到着して歓迎を受け、選手村でくつろぎ、ナチス式敬礼でスタンドが埋まる開会式に臨み、競技に向かう選手たち。女子200m平泳ぎで金メダルを得た前畑秀子、棒高跳びで銀・銅メダルを分かち合った大江季雄と西田修平ら、選手らの息吹と時代の波を、二人それぞれが生き生きと切り取っています。選手の人間性や社会を写し、競い合った二人の写真は、今日のオリンピック写真の原型とも言えましょう。

展示作品数：約81点 (金丸38点、名取43点)

【参加費】 会員、学生……無料

【定員】 30名限定 (参加される方は必ず事前に申込をお願いします。)

【申し込み】 開催日の1週間前までに日本写真学会HPよりお申込みください。 <http://www.spstj.org/> 先着順で受け付けますが、定員を超えた場合はお断りする可能性があります。あらかじめご了承ください。

写真好きのための定例講演会実行委員会

実行委員長：小林裕幸 (日本写真学会会長/千葉大学)

委員：鈴木博文 (ニコソ) 鈴木敬子 (神奈川県美術館) 西垣仁美 (日本大学) 松澤良紀 (オリンパス)、山田勝実 (東京工芸大学)、大木博、森田晃

幹事：桑山哲郎 (千葉大学)

事務局：山岸治 (日本写真学会)